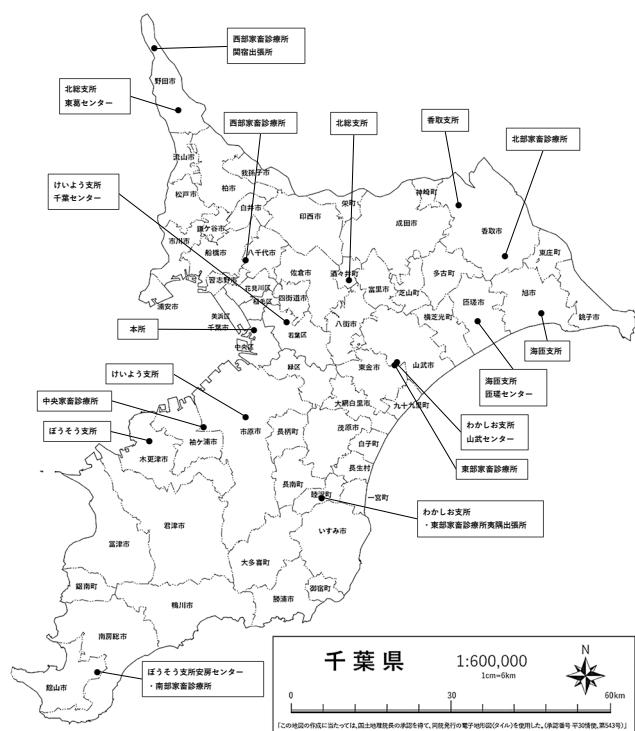


# 千葉県農業共済組合 (NOSAI 千葉)

## 1. 千葉県の紹介



四方を海と川に囲まれ、豊かな自然に恵まれた千葉県は、首都圏の東側に位置し、南東は太平洋、西は東京湾に面し、太平洋に突き出た半島になっています。また、北西部で東京都と埼玉県に、北は利根川に沿って茨城県に接しています。東京湾岸の低地、北部は比較的平坦な北総台地、利根川流域と九十九里沿岸の平野部、南部は200～300m級の山々が続く房総丘陵からなり、総面積は5,158km<sup>2</sup>です。

## 2. 千葉県の農林水産業

農地が総面積の24%に当たる1,260万km<sup>2</sup>あり、宅地等の45%とともにそれぞれの割合は全国平均の2倍と高くなっています。一方で、森林面積は30%と半分以下です。産業は多岐にわたり、京葉地域の鉄鋼や石油化学が代表する工業やディズニーリゾートをはじめとする商業も盛んな地域です。平成27年の調べでは、県内総就業者数288万人のうち、第1次産業8万人(2.9%)、第2次産業56万人(20.6%)、第3次産業208.2万人(76.5%)となっています。平成29年度県民経済計算によると県内総生産211,069億円に対し農林水産業は2,491億円(1.2%)です。全国10位の生産量となっている水産業は太平洋に面する外房エリアと東京湾に面する内房エリアから伊勢海老、アワビ、ブリ、イワシ、



日本一の生産金額の「から付き落花生」と「日本なし」

金目鯛など様々な魚介類が水揚げされています。農林水産業全体の生産量も全国では上位を占めますが、県内総生産に占める割合は小さなものとなっています。

令和元年の農業産出額は3,859億円(対前年比△9.4%)で全国第4位、産出額の構成割

合は野菜33.8%、米17.9%、いも5.4%、その他耕種10.5%、畜産32.3%となっています。とくに盛んな算出品目は米(全国第8位)、野菜(全国第3位)、いも(全国第4位)、花き(全国第2位)、生乳(全国第4位)、豚(全国第3位)、鶏卵(全国第2位)です。

### 3. 千葉県農業共済組合の概要(令和5年8月1日付)

- 所在地：千葉県千葉市中央区新千葉3-2-6 農業会館内
- 電話番号：043-245-7449(代表)
- 理事：14名
- 監事：4名
- 総代：134名
- 損害評価会委員：32名
- 家畜診療所運営委員：14名
- 職員：282名

### 4. 千葉県農業共済組合の活動

千葉県農業共済組合(NOSAI千葉)は令和2年4月1日、県内6つの組合(けいよう、ほうそう、わかしお、海匝、香取、北総)が合併し千葉県農業共済組合連合会を吸収する形で県域を一つのエリアとした特定組合として新たにスタートしました。

昭和23年に県内の313市町村にそれぞれ1つずつ設置された組合から始まった農業共済組合ですが、比較的温暖な気候の千葉県では昭和30年ころから水稻の作柄が安定化傾向に推移し、掛け捨ての共済掛金に対する不満が高まり滞納が増加、事業運営の基盤を揺るがす大問題となりました。そのような中、市町村への事業移譲の道も開かれましたが、高度経済成長による経費増大や都市化による事業基盤の格差は大きく、千葉県では昭和39年「千葉県農業共済組合合併要綱」を取りまとめ広域合併の推進に踏み切りました。昭和47年度までにおおむね郡単位の合併を達成し、その後も合併を繰り返し平成19年に6組合体制となり、令和2年の合併を

迎えました。組合員に不便のないよう旧組合事務所は支所としてその機能を残し、本所、6支所・5センター、5家畜診療所・2出張所の体制で地域ごとに特徴のある引受け、運営を行っています。

当組合で実施運営している農業保険制度は国の保険制度で、自然災害による損失を補てんする「農業共済制度」と農業者自身の農業収入を補てんする「収入保険制度」があります。

本県は、自然災害の被害が比較的少ない県ですが、数年に1度勢力の強い台風により甚大な被害を受けます。令和元年房総半島台風は記憶に新しいところです。また、最近では、コロナ禍と原材料の高騰が農業経営にも大きな影響を与えています。

こうした情勢の変化の中で、リスクを抱える農業者に「備えあれば憂いなし」の農業生産体制を構築していただくため、農業経営のセーフティネットとしての役割を果たしていくため、役職員一丸となって、農業保険制度の普及推進に取り組んでいます。